勤怠連携コンテンツ
ユーザーマニュアル

株式会社セキュア

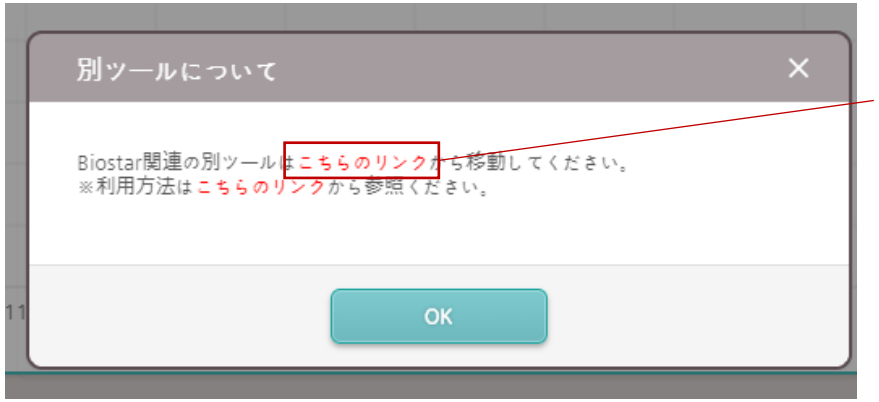
アクセス方法

アクセス方法(1/2)

SECURE

1. ブラウザにて BioStar2 へアクセスし “お知らせ” の “別ツールについて” を選択してください

2. 下記のようなウィンドウが表示されるため “BioStar関連の別ツールはこちらのリンクから移動してください。” の “こちらのリンク” を選択してください



アクセス方法(2/2)

SECURE

3.　下記のような画面に移行することを確認してください

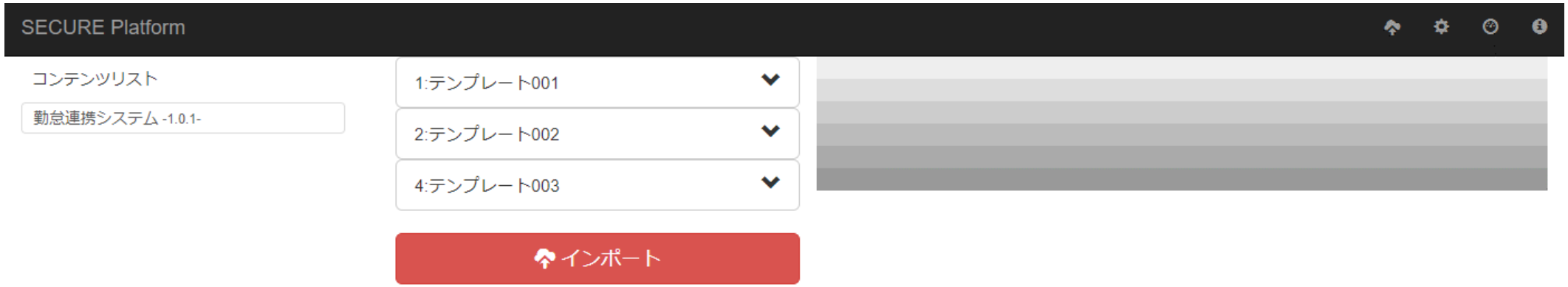
初期設定方法

初期設定方法

SECURE

1. “コンテンツリスト” の “勤怠管理システム” を選択してください

2. 下記のような画面が表示されます



初期設定方法

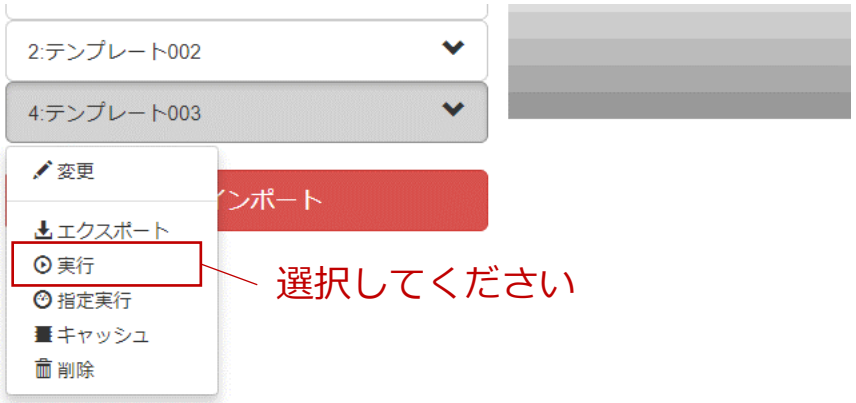
SECURE

3.　設定の選択

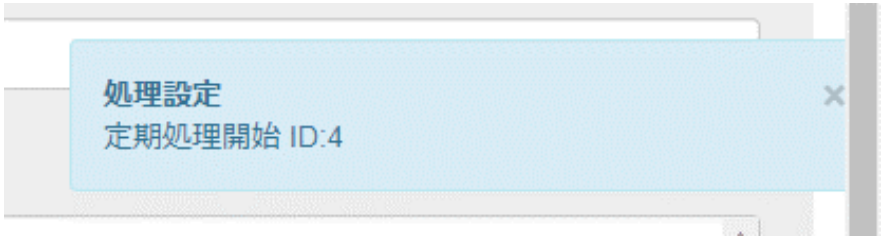
3-1.　既存の設定を利用する場合

3-1.1　利用するテンプレートを選択しメニューが表示されることを確認してください

3-1.2　“実行” を選択してください



正常に実行されると、右上に下記のようなメッセージが表示されます



初期設定方法

SECURE

3-1.3　選択したテンプレートが実行状態（青い表示）になっていることを確認してください

実行状態になると設定されている周期にて出力処理が実行されます。
基本的にテンプレートは出力済みのデータは出力しない設定になっているため、5分に1度でもデータがない場合は上書き/追記等は行われません。
また、出力対象のフォルダを生成する機能はないのでデフォルトの「c:¥out」フォルダは手動で生成する必要があります。

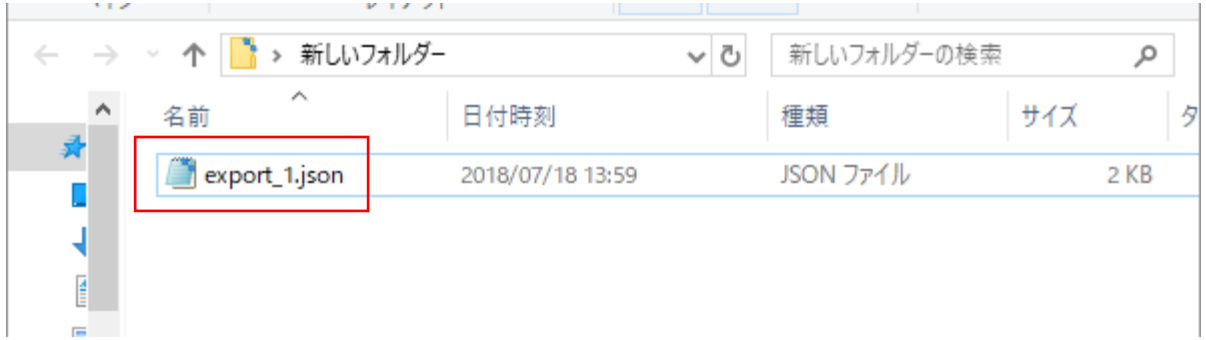
初期設定方法

SECURE

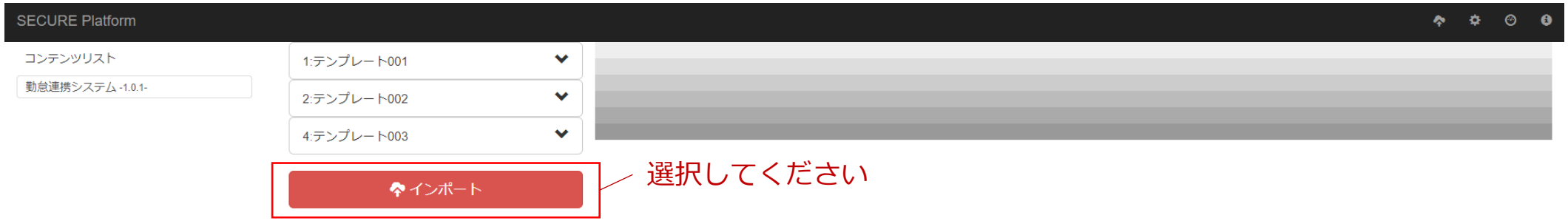
3.　設定の選択

3-2.　事前に作成した設定を入れ込む場合

3-2.1　設定ファイルである json ファイルが手元にあることを確認してください



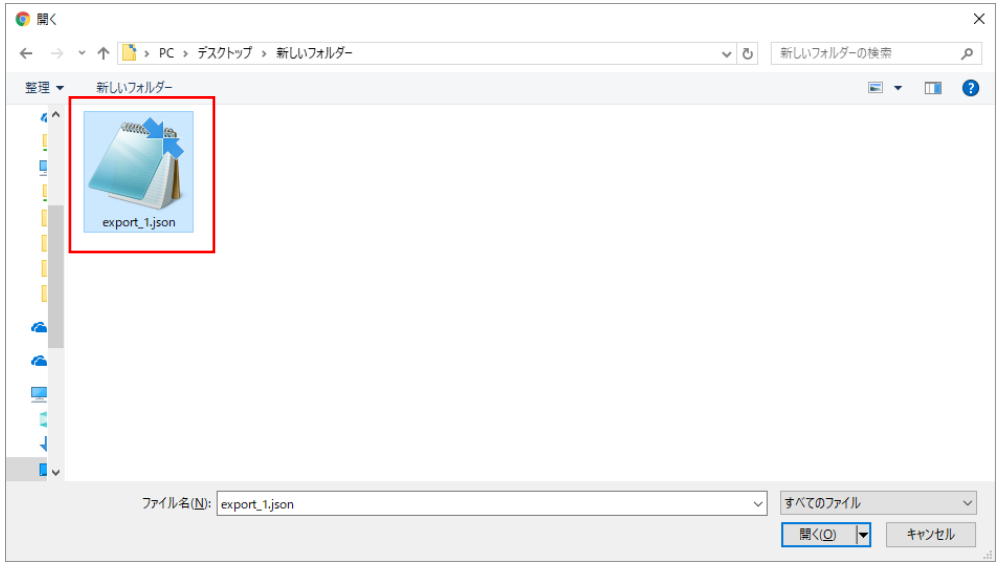
3-2.2　[インポート] を選択してください



初期設定方法

SECURE

3-2.3　事前に用意した json ファイルを選択してください



正常にインポートされると、右上に下記のようなメッセージが表示されます

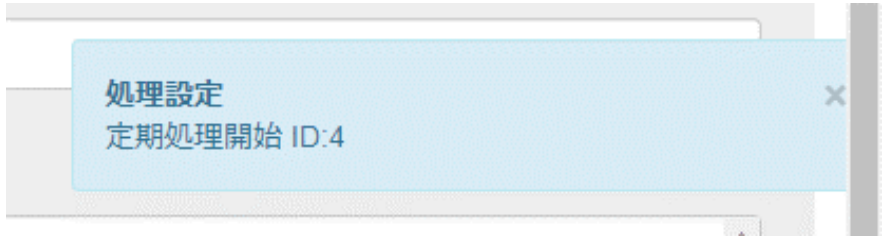
3-2.4　インポートされた設定が反映されていることを確認してください

初期設定方法

SECURE

3-2.5　インポートされた設定を選択し “実行” を選択してください

正常に実行されると、右上に下記のようなメッセージが表示されます



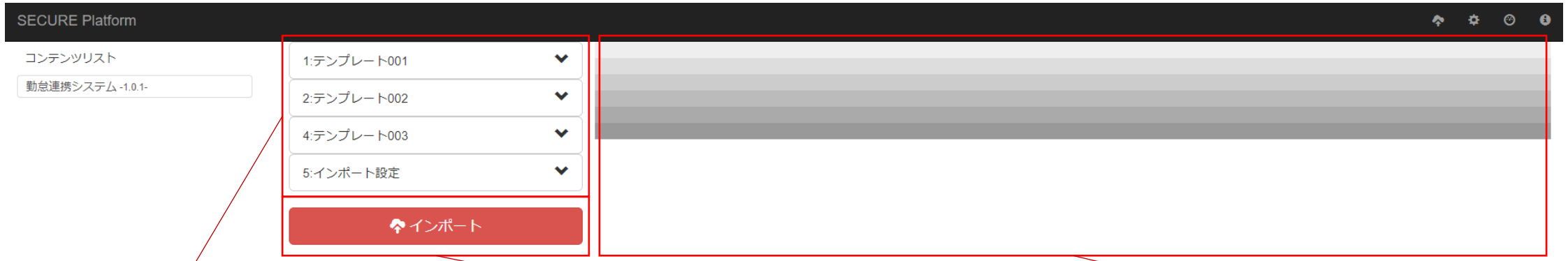
3-2.6　選択したテンプレートが実行状態（青い表示）になっていることを確認してください

ユーザマニュアル

ユーザマニュアル：勤怠管理画面

SECURE

勤怠連携の各種設定の管理画面になります



<勤怠連携設定リスト>
勤怠連携の設定リストになります。
それぞれ個別の設定になっており、
DBの読み込み方や出力設定などが
規定されています

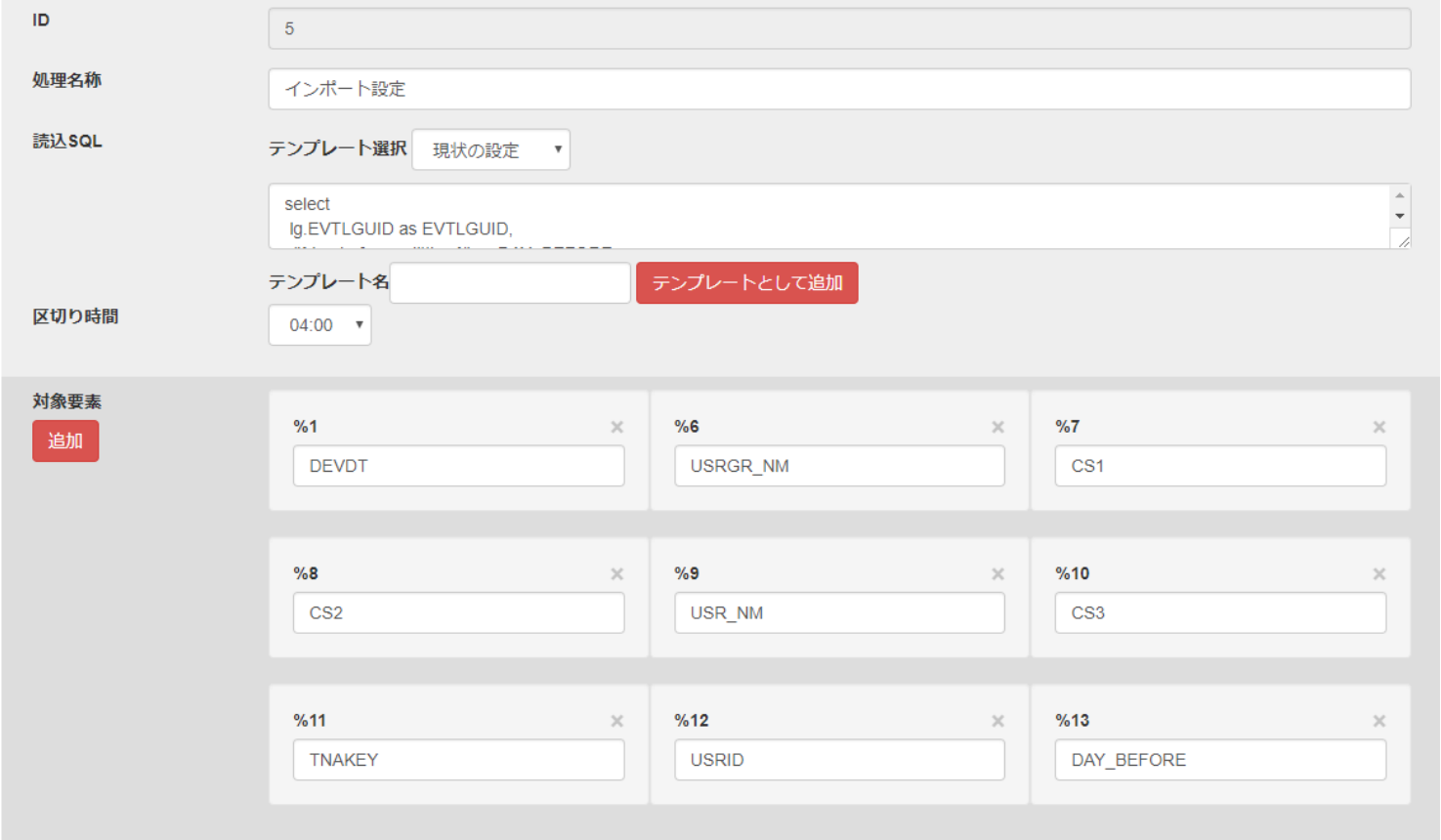
<勤怠連携設定インポートボタン>
勤怠連携の設定をインポートするボタンです。
外部から事前に設定されている設定をインポートできます

<勤怠連携設定変更ウィンドウ>
勤怠連携の設定を変更する画面です

ユーザマニュアル：勤怠設定変更画面(1)

SECURE

勤怠連携の各種設定の変更画面になります



ID:

勤怠連携設定の固有IDです。変更は不可です

処理名称：

勤怠連携設定の名称です

読込SQL：

データを読み込むためのSQLです。
特殊な置換文字列に関しては付録を参照ください

区切り時間：

読込SQLで利用される区切り時間です

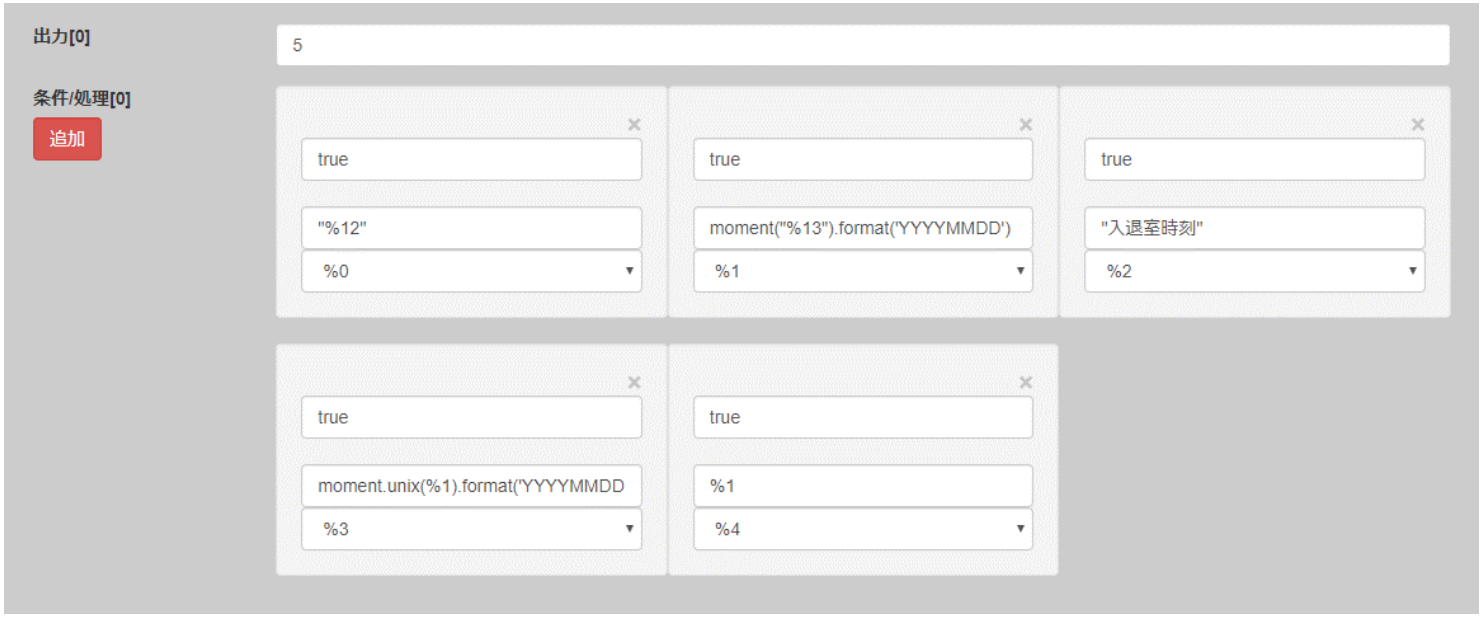
対象要素：

SQLの読込結果から処理/出力を行う変数を設定する項目です

ユーザマニュアル：勤怠設定変更画面(2)

SECURE

勤怠連携の各種設定の変更画面になります



出力[0]：

この処理内で出力するoutputの数です

条件/処理[0]：

変数毎の処理設定になります

条件/処理[0] (1列目:IF)：

この処理を実行するかの処理条件になります。

%1などで前記対象要素を取得する事ができます

※文字列の場合もダブルクォーテーションなどで囲まれないためご注意ください

条件/処理[0] (2列目:FUNCION)：

1列目:IFが有効な場合に実施される処理です。

%1などで前記対象要素を取得する事ができます

条件/処理[0] (2列目:OUT)：

処理結果を入れる変数になります

例：%1を指定された場合、次の処理からは%1は これらの処理結果となります

ユーザマニュアル：勤怠設定変更画面(3)

SECURE

勤怠連携の各種設定の変更画面になります

集約をやめる/集約をする：
集約処理を行うか、行わないかの選択ボタンです

キー要素：
集約処理のメイン要素を選択します。
例えば、ユーザIDが関連付けられている変数
（%1など）を指定すればユーザ毎に集約されます

対象要素(チェックボックス)：
対象以外に要素に関してどの項目で選択された
内容を有効にするのかを選択します

対象要素(一列目：IF)：
この処理を行うかの条件になります

対象要素(二列目：IN)：
どの要素に処理を行うかを選択します

対象要素(三列目：SORT FUNCIOTN)：
比較分になります（%0:比較要素1 %1:比較要素2）
同一の場合は解が0 %0が大きい場合は0より大きい
%1が大きい場合は0より小さい

対象要素(四列目：OUT DATA)：
出力を行う要素になります。
二列目/三列目の条件で合ったものに関して
別の要素を選択する事が可能です

ユーザマニュアル：勤怠設定変更画面(4)

SECURE

勤怠連携の各種設定の変更画面になります

保存　：変更した設定を保存できます
テスト　：変更した設定をテストできます
追加　：変更した設定を追加できます
変更を戻す：変更した設定をもとの値に戻ることができます

出力先：
出力を行う先のフォルダ名（サーバ側です）

出力ファイル名対象日：
出力ファイル名で参照される日付を
出力日からどの程度+-するかの設定です

出力ファイル名：
出力されるファイル名です。
下記のフォーマットに依存します
https://momentjs.com/docs/#/parsing/string-format/

改行コード：
出力される改行コードの設定です

エンコード：
出力されるエンコードの設定です

説明は次ページに続きます

ユーザマニュアル：勤怠設定変更画面(4) 続き

SECURE

勤怠連携の各種設定の変更画面になります

保存　：変更した設定を保存できます
テスト　：変更した設定をテストできます
追加　：変更した設定を追加できます
変更を戻す：変更した設定をもとの値に戻ることができます

タイトル行：
チェックをつけると指定した文字列を出力できます。
チェックをつけない場合には出力されません

出力フォーマット：
出力されるデータのフォーマット
要素は「%1」、集約結果は「%f1」等で参照
出来ます

出力方法：
「追記」と「上書き」の2種類の出力方法
から選択できます

出力タイミング：
「1日1回実行」「n分置きに実行」「cron指定」
の3種類から選択し、タイミングを規定できます

日時を指定した出力方法

SECURE

1. 指定実行したい設定をクリックし、メニューから “指定実行” を選択してください

選択してください

2. 下記のような画面が表示されますので、
設定を確認して [実行] を選択してください

選択してください

cache:SRVDT :

cacheで保存しているSRVDT値です。
前回からの差分で出力するような設定の場合、
この設定を過去に戻す事により、過去から今までの
データを出力する事ができます

cache:EVTLGUID :

cacheで保存しているEVTLGUID値です。
前回からの差分で出力するような設定の場合、
この設定を0に戻す事により、過去から今までの
データを出力する事ができます

実行日時 :

処理を実行した日時です。
翌日5時に前日4時から当日4時のデータを取得する
場合はこちらのデータを参照しています。
任意の日付にすることで任意の日付を取得可能です

日時を指定した出力方法

SECURE

3.　下記のような画面が表示されることを確認してください

標準出力:ERR：処理中に発生したエラーログです
標準出力：処理中にログです
STEP0:出力：STEP0の処理結果です
STEP1:出力：STEP1の処理結果です
STEP2:出力：STEP2の処理結果です
STEP3:出力：STEP3の処理結果です
最終:出力：最終結果のCSVファイルです

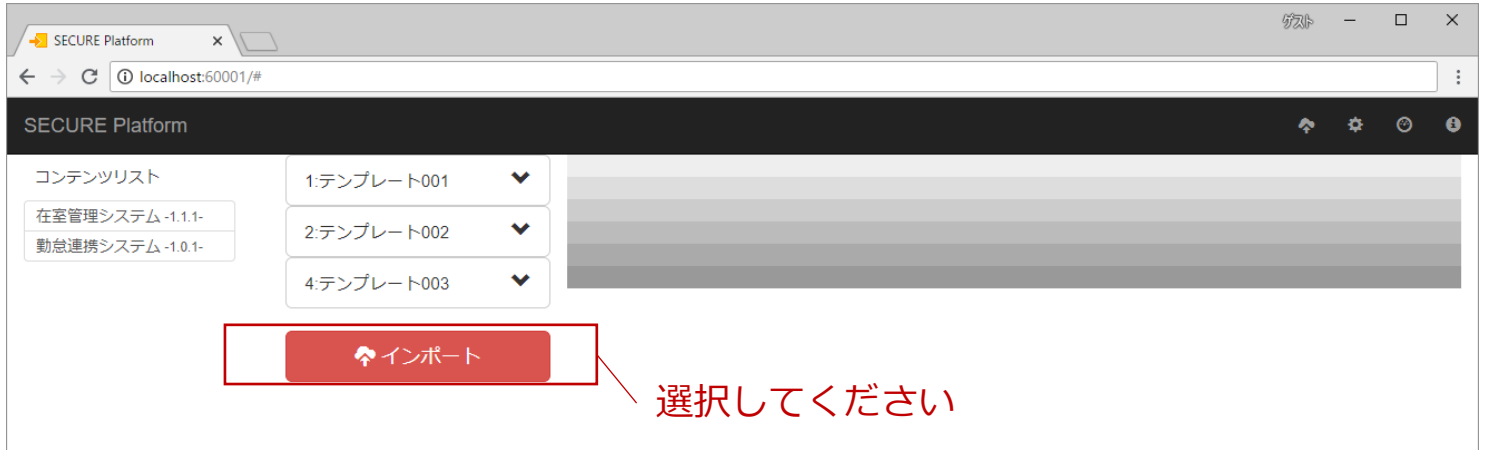
キャッシュファイル：実行したキャッシュファイルです
設定ファイル：実行した設定ファイルです
閉じる：画面を閉じるボタンです

4.　[最終:出力] を選択しダウンロードしてください

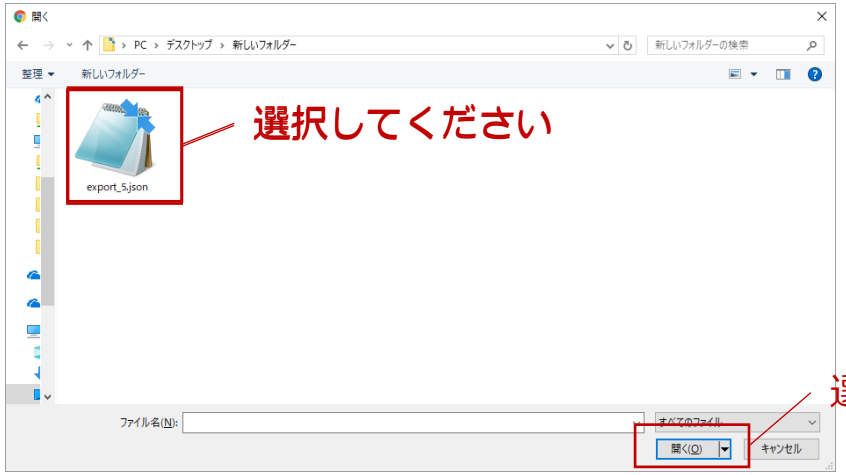
処理設定追加

SECURE

1. 「インポート」を選択してください



2. インポートしたい処理設定を選択し、「開く」を選択してください



成功すると右上に下記のメッセージが表示されます。

成功すると設定リストに追加されます。

おわり

付録：SQL置換

SECURE

置換文字	概要	置換後の例
{today}	実行日の日時	2018/05/29 01:25
{old-log-srvdt}	前回成功時のSRVDT(cacheに依存)	2018/05/29 00:05
{old-log-evtlguid}	前回成功時のEVTLGUID(cacheに依存)	123456
{logtablogs}	全ログテーブルリスト	(select * from t_lg201807 union select * from t_lg201808...) as t_lg
{logtablogs-now}	全ログテーブルリスト (前回のSRVDT以降のもののみが対象)	(select * from t_lgYYYYMM where (SRVDT >= "{old-log-srvdt}") union sele...) as t_lg
{splittime}	設定されている区切り時間	02:00
{day-before-splittime}	昨日の区切り時間	2018/05/29 02:00
{day-splittime}	今日の区切り時間	2018/05/29 02:00
{custom-fields-join}	カスタムフィードテーブルのJOIN	biostar2_ac.t_usr as usr on lg.USRID = usr.USRID inner join (select * from biostar2_ac.t_usrcusfld where CUSFLDUID=1) as cs1 on cs1.USRUID=usr.USRUID
{custom-fields-select}	カスタムフィードテーブルのSELECT	,cs1.VAL as CS1, cs2.VAL as CS2, cs3.VAL as CS3